

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

|           |   |
|-----------|---|
| 会 議 名     | 令和5年度第1回高松市生涯学習センター等運営協議会   |
| 開 催 日 時   | 令和5年7月27日（木）午後1時30分～午後2時30分   |
| 開 催 場 所   | 高松市生涯学習センター2階 大研修室  |
| 議 題       | (1) 令和4年度高松市生涯学習センター等の事業実績について<br>(2) 令和5年度高松市生涯学習センター等の事業計画について                                  |
| 公 開 の 区 分 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 上 記 理 由   |   |
| 出 席 委 員   | 6人  |
|           | 田中委員、藤井委員、長尾委員、大西委員、井上委員、藤井（真）委員  |
| 傍 聴 者     | 0人（定員5人）  |
| 担当課及び連絡先  | 生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222   |

| 会議の経過及び結果   |
|---|
| <p>《次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 教育局长あいさつ</li> <li>3 会長あいさつ</li> <li>4 議事               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和4年度高松市生涯学習センター等の事業実績について</li> <li>(2) 令和5年度高松市生涯学習センター等の事業計画について</li> </ul>               ※事務局から配付資料に基づき説明後、協議・意見交換             </li> <li>5 その他</li> <li>6 閉会</li> </ol> <p>《協議の経過及び結果》</p> <p>事務局から、議事（1）及び（2）について、説明を行い、承認を得た。</p> <p>（委員）</p> <p>インスタグラムを活用した情報発信や「まなび図鑑」という生涯学習に関する情報を集約した情報発信サイトの開設など、画期的なことがいろいろ行われていて、すごくいいと思った。特に「まなび図鑑」は、DXとか情報通信技術を使って生活しやすいような環境づくりをしている市の政策にも合致することであり、更なる取組を期待している。</p> <p>自主学習スペース利用者のアンケートだが、もし、まなびCANで講座を体験するのであれば、どういう講座だったら体験したいか、時間帯が何時であれば利用するか、利用者ニーズを調査して、今後の講座の開発に生かしてはどうか。</p> |

(事務局)

デジタルの面だが、御指摘のように、高松市はデジタル市役所としてDXを推進している。まなび図鑑は、デジタル推進部と協調して、いろいろと広がりを出すことができるかもしれないので、早速協議して、付加価値を付けることも検討したい。

自主学習スペースでのアンケートだが、現在は、利用者の負担にならないよう、学生かどうかや年代などの簡単なアンケートとしている。また、多く利用する人は、毎回アンケートを出すのが面倒なため、利用実績が、実態よりも低く出ている傾向にある。

自主学習スペース利用者が希望する講座や時間帯は、今後、生涯学習センターが若い世代など幅広い属性の方向けの講座を検討する際の有効なデータになると考えられることから、アンケートの内容に取り入れて活用したい。

(委員)

施設の稼働率がコロナ禍の中、前年より随分上がっており、自主学習スペースや夜間教室が新しく始まったことが反映されているのだと思う。まなびCANは市民のための施設なので、多くの市民に利用してもらいたいという思いで尽力されていると思うが、稼働率が向上した要因は何だと感じているのか教えていただきたい。

また、若い方にも生涯学習センターを使っていたらいいと思うのだが、講座を開催する施設か、開放して自由に使ってもらえる部分を持つ施設にするのか、どのような方向性でいくお考えか。

(事務局)

稼働率の向上だが、これまで使っていなかったところを自主学習スペースとして使い出したというところが大きいと思う。夜間については、若い世代や、勤め帰りの人向けの講座やイベントを開催したことが要因だと思う。

今後の在り方として、講座の充実と自由なスペースの利用のどちらを目指すのか、あるいは両方を目指していくのかについては、当館は公共施設であり、生涯学習のための施設であって、貸館で収益を目指すための施設ではないが、一方で施設の有効利用も大事なので、生涯学習施設であるということを念頭に置きながら、しっかり考えていきたい。

(委員)

ウィズコロナの社会で、どう考えていくかは大事なポイントになる。貸館のための施設ではないということが市民に根付いてほしい。利用者が激増することはないと思うが、徐々に利用が広がっていけばよいと思う。

(事務局)

生涯学習センターは本市の生涯学習の拠点施設であり、主催講座で生涯学習センターを知っていただき、貸館で市民の皆さんが生涯学習センターを使って自分たちの生涯学習を行えば、貸館も増え、講座も活性化して、すごくいい循環になっていくと思う。いただいた御意見を参考にしながら考えていきたい。

(委員)

多岐にわたる講座を開催していることがよく分かった。インスタグラムやホームページで、若い世代にアピールして認知度を上げていることがいいと思った。そして、一度、生涯学習センターを使ってもらって、施設のファンを増やしていくといういいサイクルになっている。今年度の事業で、商店街との連携事業や他の団体との共催事業をするということなので、この

施設のよさを若い人や現役世代の方にも PR していければいいと思う。

(事務局)

商店街との連携事業や他団体との共催事業は、生涯学習センターが公共施設だからこそ、安心いただいで一緒にやってもらえているというところも多いと思っている。公共施設であるという強みを生かしながら、生涯学習センターの利用を増やして本市の生涯学習の推進に努めていきたい。

(事務局)

生涯学習センターは平成 14 年に開館をしてから、昨年で 20 周年という節目の時期を迎えた。20 年を経過したので、事業の内容や施設のあり方について、再確認することも必要な時期になっていると考えている。

昨年度からは、民間のカルチャースクールとは異なる市の公共施設としての役割を果たすために、大学生が高校生とともに地域課題に取り組む講座や、学び直しの機会としての夜間教室、それから市民の皆さんへの自主学習スペースの無料開放、市の図書館と連携して、図書館の本を生涯学習センターで貸出しできるようにしたり、今年度からは、こども未来館との連携講座を開催したりするなど、市の公共施設ならではのアドバンテージを生かしながら、これまでなかった新しい事業をいろいろやってきたところである。

委員の皆さんには運営方法等、今後のあり方について、御意見をいただきたい。

(委員)

生涯学習センターの公共施設としての役割を充実させるため、高松市の事業や計画等を講座にしてもらってはどうか。例えば、出前講座というのを市は行っているが、要望の多いテーマは市民が関心を持っている。税、子育て、都市計画などいろいろあるので、検討してみてもどうか。

(事務局)

本市では、まちづくりの施策を各部局がそれぞれの視点で行っており、御提案の内容は、生涯学習センターが公共施設として、非常に大きな役割を果たす取組である。

各部局が行う出前講座や住民説明会は、案外、参加する人にとってはハードルが高いところもあると思うが、生涯学習センターの講座の形であれば、比較的ハードルが低く、若い世代も参加しやすいメリットもあるかと思う。

生涯学習センターが市の施策の実現に貢献し、まちづくりに寄与するという事は、公共施設だからこそその役割であるため、今日いただいた意見について検討したい。

(委員)

自主学習スペースの無料開放を行って若い人の利用が増えていたり、他の高松市の施設との連携でプラネタリウムを使った講座を行ったりということで、幅広い世代に利用され活性化してきている。これらの取組と効果は、市の直営だからこそできることである。

指定管理の話が時々出てくるが、やはり今後とも直営として運営していただければと思う。

(事務局)

いただいた御意見は、すぐにできるところと、なかなか難しいところ、更に検討が必要などところ、いろいろあろうが、総合的な観点から検討させていただき、進めさせていただけたらと思う。